

「総合的な学習の時間」内容系列表（群馬県総合教育センター試案）

| 領域 | 領域の目標 | 領域の内容 | 各学年の内容 | | | |
|-------|--|--|--|--|--|--|
| | | | 小学校3・4年 | 小学校5・6年 | 中学校1・2年 | 中学校3年以上 |
| 国際理解 | 人と人との相互理解・相互交流を基本に国際化の進展に対処することができるように、日本や世界の国々の歴史や文化に関心をもち、異文化を尊重し、国際社会の一員として共に生きていくことのできる資質や能力を育てる。 | ア 異文化理解及び異文化尊重の態度 イ 共生（国際交流・協調） ウ 地域や自国の歴史や伝統文化等の理解及び自己の確立 エ 外国語によるコミュニケーション | ア 世界の様々な国の歴史や文化に進んで親しみ、それぞれのよさに気付く。 イ 様々な国の人々と交流し、だれでも仲良く助け合おうとすることができる。 ウ 郷土の文化や先人の偉業、歴史について調べ、興味・関心をもつ。 エ 外国語に興味・関心をもち、歌や言葉を親しむ。 | ア 世界の様々な国の歴史や文化について理解を深め、視野を広げる。 イ 様々な国の人々と交流し、それぞれの国のよさを尊重するとともに、大切にしようとする。 ウ 日本の歴史や伝統・文化について学び、大切にしようとする。 エ 外国語に興味・関心をもち、簡単な日常会話に慣れ親しむ。 | ア 他国の歴史や文化への関心を高めるとともに、そこに見られる共通性や差異を理解し、尊重しようとする。 イ 異なる立場や考えの人、外国人などと協調し活動しようとする。 ウ 自国のよさを見つめ、日本人としての自覚をもち、自己の在り方を考えようとする。 エ 外国語によるコミュニケーションを積極的に図る。 | ア 他国の歴史や文化、伝統を包括的・体系的に理解し尊重しようとする。 イ 様々な国の人々と積極的に交流し、国際親善に努めようとする。 ウ 国際社会の一員として、日本や日本人の役割について考えようとする。 エ 外国語で意思の疎通ができるようになる。 |
| 情報 | 様々な学習や生活との関連において、多くの情報の中から自分に必要な情報を収集・選択し活用することができ、情報の積極的かつ責任ある発信ができる資質や能力を育てる。 | ア 情報収集と活用 イ 責任ある情報の発信 | ア 課題意識をもって、必要な情報を収集・選択し、生活に役立てようとする。 イ 相手の気持ちを考えた情報発信ができる。 | ア 多様な情報源を用いて、目的に応じた適切な情報を収集・選択・整理し、生活に生かすことができる。 イ 受け手の願いや状況、メディアの特性などを考慮し、責任ある情報の発信ができる。 | ア 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、必要な情報を収集・選択・整理・処理し、生活に生かすことができる。 イ 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼす影響を理解するとともに受け手の状況を踏まえ責任ある情報の発信ができる。 | ア 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、収集・選択した情報を判断し、分析するとともに生活に生かすことができる。 イ 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼす影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする。 |
| 環境 | 身近な自然に積極的にかかわり、自然のもつ豊かさや大切さに気付き、生活と環境のかかわりについて理解を深め、自然と共生し、自分ができる方法での環境保全やよりよい環境を創造する資質や能力を育てる。 | ア 自然に対する感受性や環境への関心 イ 環境問題と生活様式とのかかわりについての理解 ウ 環境保全やよりよい環境創造のために、主体的に行動する実践的態度 | ア 様々な体験活動を通して、身近な自然に親しみ、自然の大切さに気付く。 イ 身近な環境問題を知り、それは自分たちの生活と深いかかわりがあることが分かる。 ウ 環境問題の解決や環境の保全、よりよい環境の創造を目指す地域の人々の気持ちや取組、関係機関の取組などを知り、自分にもできる方法で実践しようとしている。 | ア 自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高め、自然を大切にしようとする。 イ 環境問題の現状について、科学的な方法を用いてとらえるとともに、自分たちの生活とのかかわりについて考える。 ウ 環境問題の解決やよりよい環境創造を目指した取組が抱える構造的な問題について認識を深め、その上で、自分たちの生き方を振り返り、日常実践に移すことができる。 | ア 多様な視点や論理で地球規模の自然を見直し、自然保護に必要な生活の在り方を考える。 イ 生産・流通・消費といった人間の生活の営みが、様々な面で環境に影響を及ぼしていることを理解する。 ウ よりよい環境創造、経済活動や生活様式の変化など多面的な視点から環境問題をとらえ、自分ができることを考えたり、実践したりする。 | ア 地域規模、地球的規模の環境問題、自然破壊等を多様な視点から科学的に分析し、産業と自然や環境とのあるべき姿を考える。 イ 人間と環境との関連性を幅広くとらえる中で矛盾を見だし、人間の責任や役割について理解し、よりよい自然との共生について考える。 ウ 環境問題の解決やよりよい環境の創造のための取組の裏にある諸矛盾に気付き、将来にわたって考えていかなければならないことは何かを考え、自分なりの日常実践を行う。 |
| 福祉 | 自分を含め、様々な人々がそれぞれに生きがいをもって生きようとしていること、そのためにお互いに助け合っていることを理解し、より一層充実した福祉社会の実現に貢献する資質や能力を育てる。 | ア 他者への尊重・尊敬・思いやりなどの豊かな人間性 イ 福祉にかかわる社会の特質・問題の理解と、看護・福祉などの課題についての認識 ウ よりよい福祉社会実現のために、主体的に行動する実践的態度 | ア 身近にいる高齢者、年少者、障害者などのかかわりながら、それぞれの人の存在の大切さに気付き、温かい気持ちで接する。 イ 様々な人々の置かれている社会的状況を知るとともに、身近なところに配慮や工夫があることが分かる。 ウ 身近な福祉問題の解決の方法やみんなが幸せに暮らせる社会について考え、自分にもできることを実践する。 | ア 様々な人々とのかかわりを通して人は生きがいをもって生きていることや互いに助け合っていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接する。 イ 日々の生活は人々の支えや助けによって成り立っていることや福祉社会の現状や問題点を知り、福祉に対する認識を深める。 ウ みんなが生き生きと充実した生活を送ることができる福祉社会とはどんなものかを考え、福祉問題の解決やより充実した福祉社会を実現するために自分ができる活動を進んで実践しようとする。 | ア 地域の人々との交流や体験活動を通して、高齢者や障害者などを正しく認識するとともに、互いの違いや個性を認め合い、尊重し、思いやりをもって接する。 イ 高齢者や障害者などの置かれている現実など現代社会の福祉にかかわる現状や問題点をとらえるとともに、ボランティア活動などの体験を通して福祉に対する認識を深める。 ウ 身近な福祉問題の解決やよりよい福祉社会実現への様々な取組やそれに携わる人々の気持ちや考えを知り、自分ができることを発信したり、実践したりする。 | ア だれもが障害を持つ可能性があり、高齢者になることを前提に、高齢者や障害のある人々は特別な存在ではないし、その人格が尊ばれ、一般の社会の中に普通に参加し、平等に生きる権利があることを認識する。 イ ボランティア活動などを通して様々な福祉にかかわる問題を認識し福祉政策や社会的サービスが対等の生活原理であることが分かる。 ウ 福祉にかかわる諸問題について、日本と諸外国の取組との比較したり、福祉政策の問題点について分析したりして、考えをまとめ、提言として発信していく。 |
| 生命・健康 | 生命のすばらしさや尊さに気付き、自他の生命を尊重する心をもったり、心身ともに健康で安全な生活を営んだりすることができる資質や能力を育てる。 | ア 生命を尊重し、大切にしようとする態度 イ 健康で安全な生活についての理解及び実践する能力や態度 | ア 動植物の生態や生育環境に関心をもち、自分の成長を振り返ったりする活動を通して、生命のすばらしさや大切さに気付き、生命を大切にすることができるようにする。 イ 健康で安全な生活を送るために必要な基本的な生活習慣の大切さに気付き、自分の生活を振り返りよりよい習慣や態度を身に付けようとする。 | ア 生命誕生の神秘を知り、自分自身の命が周りの人々とのかかわりの中で生まれはぐくまれてきた尊いものであることを実感し、すべての生命を慈しみ、尊重しようとする心をもつ。 イ 自分たちの生活の現状から病気やけがの予防、健康増進のメカニズムを理解し、自分の生活を見直し、よりよい生活習慣を創造することができるようにする。 | ア 自分自身の生命をはじめ、身の回りの様々な生命が互いに関係し合い生かされていることに気付き、生命の尊さや自他の生命を尊重しようとする心をもつ。 イ 健康で安全な生活を送るために運動・栄養・睡眠・食事などの多面的な視点から自分の生活を見直し、科学的な追究を基によりよい生活環境を創造することができるようにする。 | ア 生命について自然科学・社会科学・倫理等の面から考えたり、過去と現代人の考え方を比較したりしながら、自他の生命に対するとらえ方を振り返り、生命を尊重しようとする心をもつ。 イ 健康で安全な生活を送るためにエイズなどの感染予防についての基礎的な知識をもつとともに、そこには偏見や差別が存在することを人権や道徳の面からとらえるようになる。 |
| 地域 | 自分たちが暮らしている地域に愛着をもち、家庭や学校を含めた地域の生活上の諸問題について理解を深め、自他を尊重しつつ、地域社会の一員としてよりよい民主的な生活の実現に意欲的、協力的に取り組もうとする資質や能力を育てる。 | ア 地域の伝統・文化・行事・生活習慣・政治・経済・産業などの現状や問題点の理解 イ 地域や学校等の行事や活動、生活上の問題等の解決に向けて自他を尊重して協力的に取り組もうとする態度 | ア 地域探検や地域を支える人々との交流を通して、地域の人々の思いや願いを知るとともに、地域への関心や愛着をもつ。 イ 地域社会の一員として、地域の生活や文化等を守り、受け継ぐとともに、よりよい郷土をつくるために自分たちができることを考え、取り組む。 | ア 地域の伝統、文化、歴史、産業などの特色、それらを支える人々の存在や取組を知ることを通して、郷土への愛着を深める。 イ 地域社会の一員としての自覚をもち、地域の抱える問題点を理解した上で、自分たちの地域での生活や文化を守り、発展させていくための方法を考え、取り組む。 | ア 地域や生活上の問題について地域の専門家や様々な立場の人の意見を聞いたり、客観的、科学的にとらえたりして解決の方向性を探る。 イ 地域社会を構成する一員としての自覚と誇りをもち、他と協力してよりよい郷土の創造を目指した取組を行う。 | ア 地域社会の現状や問題点を政治、経済、産業等、多面的、多角的な視点からとらえ分析・判断し、解決しようとする。 イ 地域社会を構成する一員としての自覚と誇りをもち、自他を尊重しつつ、よりよい社会の実現を目指して、その発展に尽くそうとする。 |
| 進路 | それぞれの職業の大切さや労働の意義について理解するとともに、自己の適性や将来について考え、個性豊かによりよく生きていくことのできる資質や能力を育てる。 | ア 具体的な活動や体験を通しての職業観・労働観の拡充 イ 自己の価値観の確立 | ア 家庭や学校、地域での仕事に触れ、それらが自分たちの生活を支えていることを知り、働くことの大切さに気付く。 イ 身近な人々の様々な姿や職業に対する思いや気概に触れ、その生き方に関心をもち、自分の姿を見つめる。 | ア 職業調べや職場見学、地域の人と共に働くことなどを通して、働くことの喜びや苦労、それぞれの職業の大切さを実感する。 イ 自己の適性や将来について考え、なりたい自分に向かって、自己をより高めていこうとする。 | ア 職業調べや職場体験を通して、働くことの喜びや厳しさ、働く人たちの仕事に対する思いや責任感にふれ、労働の意義について考える。 イ 自己の適性や将来の職業選択を視野に入れ、自己を高めていくために何が必要か考え、取り組もうとする。 | ア 職業調べや職場体験等を通して、職業には性差や制度による様々な問題点のあることを科学的に理解し、自己の職業観を振り返る。 イ 現在や将来を真剣に考え、様々な社会参加の在り方や生き方の選択肢があること、生きがいをもって充実した人生を送ることの意味等を考える。 |